

学力向上の取組みについて

1 糸魚川市での実施状況

(1) 4月中に、小学2年生から中学3年生を対象として、前学年の学力検査を実施している。

(2) 教科は、以下のように実施している。

ア 小学校2・3年生で国語・算数の2教科

イ 小学校4年生～中学1年生で国語・社会・算数・理科の4教科

ウ 中学校2・3年生で国語・社会・数学・理科・英語の5教科を実施

2 糸魚川市総合計画で定めた目標値

指標	現状(H27)	中間目標(H31)	最終目標(H35)
標準学力検査の平均(小学6年生)	51.1	55.0	55.0
標準学力検査の平均(中学3年生)	48.9	52.0	52.0

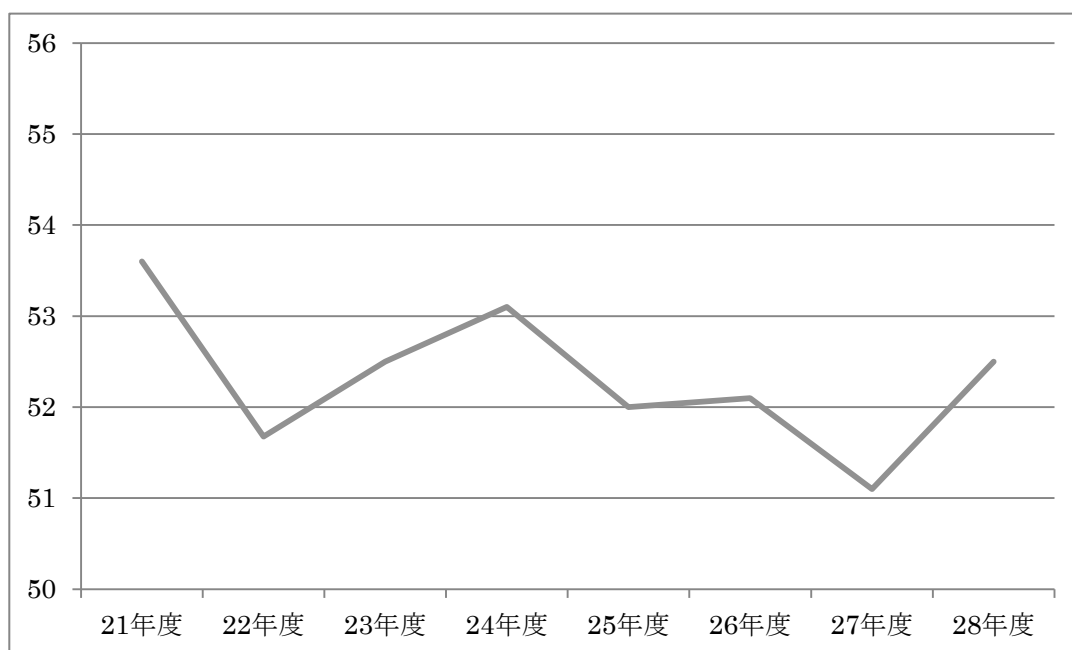
3 平成28年度の標準学力検査結果

小学校	学年	国語	社会	算数	理科		総合
	6年生(学習内容は小学5年)	52.1	51.4	53.7	52.3		52.5
中学校	学年	国語	社会	数学	理科	英語	総合
	3年生(学習内容は中学2年)	50.9	51.0	48.6	48.1	49.9	49.7

4 標準学力検査結果の推移

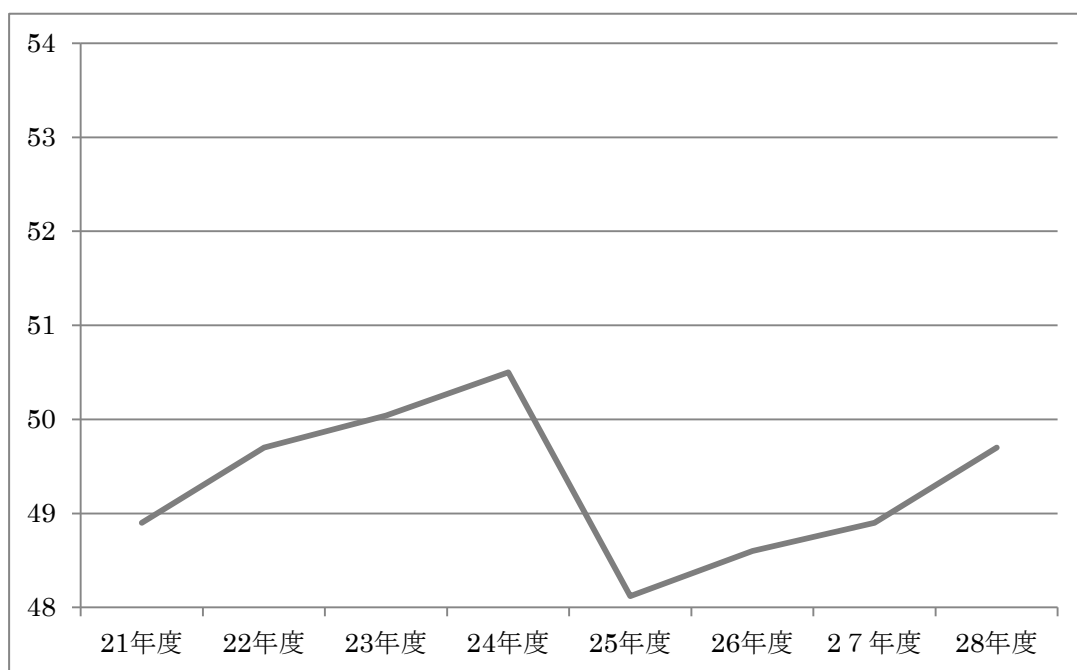
(1) 小学校6年生

学習内容	学年	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
小5	6年生	53.6	51.7	52.5	53.1	52.0	52.1	51.1	52.5



(2) 中学校3年生

学習内容	学年	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
中2	3年生	48.9	49.7	50.0	50.5	48.1	48.6	48.9	49.7



5 学力向上の取組

(1) 実態把握と授業改善の取組

①標準学力検査結果の分析・検証、課題の把握と授業の改善

ア 各学校は、結果を分析し、自校の課題を把握する。

イ 各学校は、「授業改善チェックリスト」(別紙1)や中学校区単位での取組に基づき、学校全体で取り組む具体的事項を明確にする。(例:「課題とまとめは必ず板書する」「ノート作業後は、授業中1度は机間指導し、実態を把握する」等々。取組事項は、標準学力検査に基づく自校の課題解決につながるものをつくる。)

ウ 教育委員会は、各校の「結果」「分析」「今後の取組」を提出させ、2学期からの各校の取組を確認する。

②学力向上推進システム「Web配信問題」の活用方法の見直し

上越教育事務所学校訪問にあわせた学校訪問の機会に、各中学校区ごとの取組状況を確認する。

③補習学習の実施

放課後、夏季休暇中に補習学習を実施する。

(2) 児童生徒の学ぶ意欲を高める取組

①キャリア教育の重視

今の学びが将来につながる意味を理解させるために、キャリア教育の視点に立って教育活動、指導計画を見直す。

②意欲を引き出す指導の充実

ア 日本漢字能力検定(漢検)や実用英語技能検定(英検)試験費用を助成し、児童生徒の学習意欲の向上を図る。

イ 上越教育大学、県立看護大学の見学による生徒の学習意欲の向上を図る。

ウ 子どもの活動中の看取りを丁寧に行う。(例：机間巡視等での授業中の確認。家庭学習等の作業の確認、等々。) ほめたり認めたりする関わりを通して意欲を高める。

(3) その他の取組

①中学校区単位の学力向上委員会

学力向上のため、各中学校区単位で、学力向上委員会を組織し、小学校から中学校まで共通した事項を中心として取組を行っている。

②学力向上プロジェクト会議

学力向上プロジェクト会議を組織し、全中学校区で共通して取り組むべき事項を検討し、また外部有識者の招へい、先進校視察など授業改善のための検討を進めている。

授業改善チェックリスト【シート】

別紙1-①

月	日	学校名	担当
			①子どもの聞く構えを確認しながら話をして いる。
			②指導すべき事項を端的に説明している。
			③本時の課題を板書している。
			④本時の学習内容のキーワードやキーポイントを板書している。
			⑤一〜二分程度のペアトーク等、子ども同士かかわる活動が適宜設定されている。
			⑥子どもが自力で課題に取り組む時間が確保されている。
			⑦本時の振り返りの時間が設定されている。

糸魚川市教育委員会事務局 こども教育課

昨年度、市教育委員会学校訪問を実施し、改善を要すると判断した事項を 7 点挙げました。

子どもと教師との望ましい関係づくりと平行した授業改善への取組を推進します。

①子どもの聞く構えを確認しながら話をしている。

子どもが聞いていないのに、教師が説明し続けている様子が見受けられました。授業の開始時はもちろんのこと、中盤・終盤において教師が話をする際に、聞く体制が整ったことを確認してから話しましょう。

②指導すべき事項を端的に説明している。

教師がていねいに時間をかけて説明しても、子どもの集中力は続かず、学びにつながりません。教えるべき内容は、集中させて端的に教えることを心がけましょう。

③本時の課題を板書している。

授業中、黒板に課題が記されていることで、子どもはいつでも方向を確認し取り組むことができます。「言った」では意識できません。マグネットシートや短冊黒板等を全教室に備え、全校で取り組んでいる学校もあります。板書計画を重視しましょう。

④本時の学習内容のキーワードやキーポイントを板書している。

子どもの思考の流れ、重要な内容を板書することにより、子どもが学んだことを自覚し確かな振り返りにつながります。使用するチョークの色を決めて書きましょう。ノート指導とも連動します。

⑤1～2分程度のペアトーク等、子ども同士がかかわる活動が適宜設定されている。

教師からの問いかけに対し、ほんの 1～2 分間隣りや前後の仲間と意見交流することが、思考を促し、安心感を増すことにつながります。この時間が長すぎると、間延びしたり苦痛に感じたりします。ほんのわずかな時間の交流を位置付けることを心がけましょう。

⑥子どもが自力で課題に取り組む時間が確保されている。

教師の講義調の授業では、理解は深まりません。端的な教師の説明後、見通しをもたせたうえで、子ども自身が課題解決に向かう時間を確保しましょう。

⑦本時の振り返りの時間が設定されている。

「やりっぱなし」ではなく、何を学んだか、疑問点はないか等ノートやワークシートへの記述、単元シート等への記述、口頭での確認等、工夫しましょう。

学習の主体は子どもです。教師が話し過ぎないことを心がけましょう。